

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	30

事業所番号	3970900142
法人名	有限会社 ワンカラ
事業所名	グループホーム 花みずき
訪問調査日	平成 19 年 8 月 15 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 21 日
評価機関名	高知県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3970900142
法人名	有限会社 ワンカラ
事業所名	グループホーム 花みずき
所在地 (電話番号)	宿毛市港南台2丁目9-25 (電話)0880-65-0660

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年8月15日	評価確定日	平成20年8月21日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	平屋 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5		要支援2	名
年齢 平均	82 歳	最低 75 歳	最高 89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田村内科クリニック・奥谷整形外科・聖ヶ丘病院・カタクラ歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人名の「ワンカラ」は一から始めるの意味で、管理者が看護師として勤務している頃に、家庭的な雰囲気の中で介護を中心としたお世話を一からしたいという思いが現れたものである。管理者の自宅前に立地しているため、緊急時にも安心して対応できる環境である。利用者職員が共に活動する時間を毎日設けており、楽しそうな笑顔が印象的で、今後、職員の成長と共に当グループホームも発展することが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は初めての外部評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は初めての外部評価であるが、評価の内容がよく理解されていないため、書類に不備があり、また、評価も管理者のみで行っており、職員との共通理解が得られていない。次回の自己評価に期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議が定期的には開かれていない。事業所の活動を地域住民に知ってもらい、地域に開かれたホームとしてサービスを提供するために、運営推進会議を定期的には開催し、メンバーからの率直な助言等を得ることが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 担当職員が毎月の「お便り通信」で利用者の状況を家族に細かく伝え、新聞の投書欄にもその喜びが載せられるなど、よい関係が出来ているが、家族会や意見箱がないため、今後は、意見や苦情を出しやすい仕組み作りに期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会には加入しているが、新興住宅地の中の事業所であり、地域自体の活動が活発ではない。地域住民の一員として事業所が地域活動の活性化に一役買えるよう、地域との連携を深め、活動していくことを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 家庭的な環境を踏まえた独自の理念がある。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。	<input type="checkbox"/>	地域における理解と関係性強化の必要性は認識しているため、これまでの理念に加えて地域密着型サービスとして、利用者や事業所が地域住民の一員として安心して暮らし続けられる内容を追加することを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 月1回のホーム会で話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されている。 家庭的な生活を送ることができるよう、声かけや態度に配慮している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 <input type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 新興住宅地で、地域活動が活発でないこともあり、参加できる機会も少ない。	<input type="checkbox"/>	地域での理解を得ると共に、住民の一員として、利用者が出来る活動や役割を見出し、それを支援していく努力を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 今回が初めての外部評価である。	<input type="checkbox"/>	管理者及び職員がサービス評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 運営推進会議を定期的に行っていない。 <input type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 今回が初めての外部評価であるが、会議そのものがほとんど開かれていない。	○	地域に開かれたサービスとして質の確保を図るためには、運営推進会議を定期的開催し、メンバーからの率直な助言等を得ることが不可欠であるため、早急に、市、自治会、社協などの協力を得て、定期的に運営推進会議を開催することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。	○	運営推進会議の開催も含め現場の実状を市町村に知ってもらい、交流を深めることにより、問題解決のための理解や支援を受け、サービスの質の向上を図ることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 家族の面会は多く、その都度話し合いをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 利用者の状況を、担当職員の手書きの手紙で毎月知らせている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 <input type="checkbox"/> 金銭について用途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 金銭管理は管理者一人で行っており、家族への報告も不定期である。		毎月の「お便り通信」の発送を利用するなどして、定期的に金銭の用途等を報告することを望む。また、金銭管理には複数の職員があたりが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 <input type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 意見・不満・苦情等を表せる機会が少ないことは理解しているが、具体的な改善の努力をしていない。	○	家族等の意見や苦情はグループホームのサービスの質を向上させる良いきっかけとなるものであり、まずは家族等が意見や苦情を出しやすい環境作りが必要である。家族会が、堅苦しい感じを与えるという管理者の思いがあるのなら、利用者の行事等に参加した後で意見を聞く機会を作るなど、家族等が意見や苦情を表せる機会を設ける努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	9	18	<input type="checkbox"/> 職員が異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 大幅な人員の入れ替えをしている。 <input type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように配慮している。 離職者が多かったため、十分な引き継ぎが行えていない。	○	利用者や家族との信頼関係を築くためにも、離職者を最小限に抑え、やむを得ない異動の場合も引継ぎ期間を十分にとり、交代前後の利用者や家族への説明や対応をするなど、利用者へのダメージを防ぐ取り組みを期待したい。
5. 人材の育成と支援						
	10	19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 <input type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 ホーム会で研修報告をしているとのことだが、報告書の綴りは資料のみで、研修内容の報告が無く、全職員が内容の詳細を共有できない。	○	研修の報告書は研修資料の添付だけでなく、研修内容を職員全員が閲覧し把握できるよう工夫することが望まれる。
	11	20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 <input type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。	○	市内のグループホームの交流会を立ち上げ、勉強会などをしてほしいとの意向であり、学習会や交流会など地域の同業者との交流が早期に実現するよう取り組むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
	12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入居前に自宅へ頻りに訪問し、心身の状況、生活歴等の把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。利用者職員と一緒に調理や拭き掃除を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 ゲームや踊りを共に楽しむだけでなく、利用者職員と一緒に身の回りの作業を行い、和やかな生活ができる関係を築いている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 特に、料理の場面で教えてもらうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 東京研修センターのアセスメントツールを利用し、情報収集をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族来訪時などの機会を捉えて情報収集をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 家族からの意見や要望はあまり出てこないが、職員や管理者が引き出した情報を介護計画に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行って毎月ほとんど全員が参加し、実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。 腎不全や糖尿病の利用者も、継続して生活している。 <input type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 全ての通院支援や自宅への外出など、対応している。		本人や家族が安心して生活していくためにも、重度化した場合の利用者や家族の意向をまず確認し、必要に応じた支援体制を整えることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 管理者が看護師であり、かかりつけ医等との連携も良く取れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 検査データも含めて家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 <input type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	○	安心してホームでの生活をしていくためにも、対応方針や意思確認書を作成し、家族、医師、看護師を交えて支援方法を話し合うことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 ホーム会等で職員に徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 利用者の希望に沿って買い物に出かけ、途中で気持ちが変わってもその希望を尊重するなど、柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 基本的な一日の流れはあっても、帰宅願望の強い利用者が落ち着くまで気長に対応するなど、利用者本位の支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 下拵え、配膳、下膳、食器洗いなど、利用者の行動を温かく見守りながら、協力して行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助の止まらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 毎日入浴できるようにしており、午後入浴が出来なかった場合は、夜の入浴も考慮して時間配分をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 入浴拒否の人には、時間や人を替え、チームプレーで声をかけている。どうしても駄目な場合は清拭を行う場合もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 踊りが趣味の人に、舞踊の会を鑑賞する機会を作ったり、日々の暮らしの中や利用者の生活歴などからの情報を基に、その人の役割や楽しみごとを把握して支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 利用者がしたいことや楽しみにしていることを、日常の聞き取りや声かけなどで把握し、それを基にして、日々の暮らしの中で楽しんだり、役割を担ったり出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 行きつけの美容院や買い物に出かけられるよう支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 現在はいいないが、車椅子の利用者もその他の利用者と一緒に外出できる体制になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 頻繁に徘徊する人がいた時には、近所の人から声掛けや連絡をもらうなど、地域住民との協力関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に行っている。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。	○	地域の防災訓練等の情報収集を行い、一体的な参加計画を立てることはもちろん、災害時の避難には、地域住民の協力は欠かせないので、地域住民の参加による事業所の避難訓練や夜間を想定した訓練等を実施することを期待したい。また、非常用食料等も準備されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 利用者からの希望は少ないが、声かけをし、献立に取り入れている。 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。		負担の少ないチェック方法を探しているとのことであり、保健師等に依頼し、定期的にチェックすることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になってい すわり心地の良い椅子を置くなど、利用者が喜ぶ配慮をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していな 地元の沖ノ島の歌の掛け物を壁に飾るなど、田舎の家庭的な雰囲気を出すよう工 夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫 されている。 使い慣れた鏡台や筆筒などを置き、居心地良く過ごせる居室になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人ら しく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 家族が遠方で面会も少ない場合でも、希望する仏壇を持ち込み、毎日お参りがで きるようにするなど、その人らしい生活支援の取り組みをしている。		